

バドミントン部

諦めない気持ち、今後へ繋ぐ思い

令和2年6月21日(日)、築館高校を会場に男子・女子バドミントンの試合が行われた。この試合が、コロナウイルスにより中止となっていた古川高校との定期戦の代替試合となった。選手の諦めない気持ちが観衆を感動させた。当日は、本校OBの千葉市長も試合を観戦された。

男子バドミントン [3対2 勝利]

意気込み 「昨年も勝利している今年も必ず勝つ」



試合後 「定期戦という形ではなかったが、勝利することができ良かった。楽しんで行えた。後輩には来年の定期戦でも是非勝ってほしい。8月には代替試合があるのでしっかり練習を積み、進路についても並行して頑張っていきたい。」



女子バドミントン [1対4 惜敗]

意気込み 「骨折する勢いで頑張りたい」



試合後

「悔しい。悔しい気持ち大きい。後輩には勝ってもらいたい。今後、後悔しないように様々なことに全力で取り組みたい。家族には送迎等で沢山お世話になったので"ありがとう"と伝えたい。」



千葉市長のお話

「伝統の対古高戦はいいものだ。男子校時代はぶつかり合いがあり、男臭いものだった。しかし、共学になってからは華やかさが増した。今年は定期戦ではなく練習試合という形ではあったが、実施することができてよかった。裏を返せば一生の思い出になるだろう。これは通過点に過ぎないので、進学・就職にしてもこの3年間で学んだことを忘れずに頑張してほしい。」



【取材：田代比奈・笠松萌花】